

昭和 50 年度
(1975)

厳冬期朝日岳から白馬岳縦走

昭和 50 (1975) 年 12 月 22 日～1 月 2 日

大きな天気崩れもなく無事に下山できたことを喜びたい。反面、2 年続きで好天に恵まれた 2 年部員には冬山を甘く見る事の無いようにしてもらいたい。今合宿で特にかかげられた「自分たちでラッセルができること 縦走形式による生活技術の向上」という目的はこの冬、非常に雪が少ないにもかかわらず成果が得られたと思う。

事前に問題になっていた 1、北又小屋までの林道の雪崩の危険 2、北又小屋の吊り橋の状態 3、北ア主稜線を全員で行動する これらについては雪が少なかったこと、パーティを二分することで特に支障はなかった。他に気のついたこと二つ三つ。

まず、11 月 12 月と忙しかったせいもあり、又山行が目新しいものでない等の理由によって各係の取り組みが不十分だったことは明らかだが、それをこの報告書に載せてもらいたかった。次に基本的技術の面での成果はあったにしろ 2 年部員以上のアイゼン、ザイルワークの不足は明らかであり、これからの山行で身に付けてほしい。又、3 年部員以上には状況判断の甘さが気になった(自分も含めて)。北又の林道の通過、雪倉岳の登りのトラバース、赤男山付近のルート工作等は大きな問題とはならなかったがもっとスムーズに行けたところである。他には 2 年部員に行動面生活面でももっと動いてもらいたかった。

入山 11 日目の 1 月 1 日に白馬岳の頂上から眺めた北アの山々は、各人に次の山行へのそれぞれの感慨を与えてくれたと思う。

(この年の 10 月に岩登りの練習中墜落事故が起き、その反省から自粛も検討された中で行われた合宿だった。)

CL 吉田 秀樹

参加メンバー

CL 吉田秀樹 SL 福島 渉 須貝与志明 古橋孝夫 師田信人 村田卓穂 二俣勇司 左山幹雄
片山博彦 下田 章 細野典明

行動記録

12 月 22 日 曇りのち雨のち雪

松本 (6:00) ~ 泊 (11:27) ~ 小川温泉 (14:00) ~ 作業小屋 (14:30)

小川温泉に着いたころには雪が相当降っていた。幸運にも近くの工事現場の小屋を借りれることになり、暖かい夜をすごすことができた。

12 月 23 日 小雨のち曇りのち雪

作業小屋 (6:40) ~ 越道峠 (13:26) ~ 北又小屋 (16:25)

朝起きると、空には灰色の雲がいっぱい広がって雨を降らしていたが、出発するころには止んでいた。小屋に段ボール箱 5 つ残して出発。積雪は 50 センチくらい。荷も重くしんどい。峠に着いたころよりガスが出て雪が降り出す。ひざくらのラッセルが続く。北又小屋までは実に長かった。

12月24日 曇りのち雪のち晴れのち曇り

2パーティに分かれて行動する

デポ隊：L福島 須貝 村田 左山 二俣 下田
北又小屋(6:50)～ブナ平(14:50)～北又小屋(17:00)

わかんアイゼンで出発。橋げたの無いワイヤーだけの橋を死ぬ思いで渡る。1時間もかかった。ラッセルはエライのにちっとも高度が稼げない。12時10分めしを食う。1100m地点。天気も良く剱岳の雄姿が見える。気持ちイイけどラッセルシンドイ。トップは空身でラッセル。バテバテになってブナ平に着き荷物をデポする。よくもったと思う。

デポ回収隊：L吉田 古橋 師田 細野 片山
北又小屋(6:27)～越道峠～小川温泉(13:30)～越道峠(17:30)～北又小屋(19:10)

個装だけをキスリングのタッシュェにつめて、折りたたんで出発。昨夜からの雪で昨日のトレースはすっかり消えてしまっていた。ひざから腿までのラッセル。デポを回収して峠に戻ったころには辺りは真っ暗。ヘッドランプをつけて北又小屋に向かう。小屋に戻ったときは嬉しかった。

12月25日 曇りのち雪

先発隊：L福島 須貝 村田 左山 二俣 下田
北又小屋(6:40)～ブナ平のデポ地(9:15)～イブリ山(15:00)

途中から風が強くなる。昨日のトレースがあるのでバンバン行く。ブナ平の荷物を少し回収していく。1400m地点ではツェルトをかぶって休む。

後発隊：L吉田 古橋 師田 細野 片山
北又小屋(7:10)～ブナ平のデポ地(11:15)～イブリ山(15:00)

やっぱり橋を渡るのに1時間かかった。ブナ平の荷物を少し回収。行けども行けどもイブリ山は見えない。14時ころ先発隊に追いつき一緒にイブリ山のテントサイトに着く。

12月26日 曇り 小雪ちらつく

デポ隊：L吉田 古橋 二俣 師田
イブリ山のテン場(7:00)～お花畑～2098m峰

手前のコル状の所にデポ(10:15)～帰天(11:30)

最初から腰くらいのラッセルが連続する。風は時々吹き出す。顔あたりまでの急な斜面を越すと後はずーっと大雪原が続く。お花畑を越えたあたりで視界不良のため吉田、古橋で偵察に出る。天地の境がわからないのだ。帰路は風のためトレースが消えていた。

デポ回収隊：L福島 須貝 村田 左山 下田
片山 細野
イブリ山のテン場(7:00)～ブナ平のデポ地(8:35)～帰天(11:00)

昨日のトレースはほとんど消えていたが空身で下り道なのでデポ地までは楽勝。荷物は6個しかないのでアインツバイ(じゃんけん)で1番勝った左山が空身同然でトップに行く。

12月27日 快晴のち雪

先発隊：L福島 古橋 師田 村田
イブリ山(6:10)～コル状のデポ地(9:00)～朝日小屋(10:45)

朝、快晴。朝日岳もハッキリ見える。しかし途中から雪が激しく降ってくる。デポ地を過ぎたところで後発隊が追いつく。

後発隊：L吉田 須貝 左山 二俣 下田 細野
片山
イブリ山(7:00)～コル状のデポ地(9:45)～朝日小屋(10:45)～デポ回収～朝日小屋(12:00)

先発隊に追いついたところで須貝 左山 片山 下田で昨日のデポを回収しに行く。

12月28日 曇りのち快晴のち晴れ

先発隊：L福島 須貝 二俣 左山
朝日小屋(7:00)～朝日岳(9:20)～赤男山と雪倉岳のコル(14:15)

赤男山の登りでロープをフィックスする。

後発隊：L吉田 古橋 村田 師田 下田 細野
片山
朝日小屋(8:10)～朝日岳(10:15)～赤男山と雪倉岳のコル(14:15)

朝日岳の山頂は天気も良く視界が良かった。雲海がきれいだ。山頂付近の樹木は雪が付着して奇妙な形をしていた。

12月29日 晴れ

先発隊：L吉田 古橋 村田 師田

赤男山と雪倉岳の科尔（6：45）～雪倉岳（10：20）～雪倉岳避難小屋（11：20）

テントサイトより雪倉岳正面の黒い岩壁の左側にルート工作を試みるもロープが足りず断念。これで1時間余りのロス。さらに左側の雪面にルートを取りわかんアイゼンで登る。このころより強い風が吹き始める。避難小屋付近の積雪は少なく、戸口を少し除雪して後発隊を待つ。

後発隊：L福島 須貝 二俣 左山 下田 細野 片山

赤男山と雪倉岳の科尔（8：45）～雪倉岳（11：00）～雪倉岳避難小屋（11：45）

雪倉岳の斜面はクラストしているが余り良くない。稜線に出ると風は非常に強く雪面は完全に氷化している。飛ばされそうな風とほほに激しく当

たる氷の粒で目も開けられない。ヤッケ目出帽をつける。先発隊と合流し小屋に入る。

12月30日 曇り

西風強く沈殿

12月31日 晴れ

西風あいかわらず強く沈殿

1月1日 晴れのち快晴

雪倉岳避難小屋（7：10）～三国境（8：50）～白馬岳山頂（9：35）～三国境（10：10）～天狗原（12：00）～神の田圃（13：15）

風が非常に強く鉢ヶ岳はトラバースする。三国境からサブザックで白馬岳をアタック。初めて他人と会う。頂上で10分位休んだ後再び三国境へ。天狗原でわかんを脱ぐ。この辺りからスキーヤーにぼちぼち出会う。早大小屋近くにて設営。

1月2日 晴れ

神の田圃テン場～梅池スキー場～白馬駅～松本

スキー場の中を尻セードで滑りキレイな姿のスキーヤーの中をひたすら下る。松本の部室にて解散。天気はこのあとから悪くなってくる。



●朝日岳へ最後の登り